

第651回番組審議会報告

2020年9月8日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長 今井美樹委員 島田智委員 太平信恵委員
津村記久子委員 東野博昭委員 細見良行委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 虫明常務 浜田取締役 高山取締役 磯澤取締役
藪内取締役 中村ラジオ局長 山田プロデューサー 津田コンプライアンス室長
中西番組審議会事務局長

◆審議事項

ラジオ番組『福島のおひろの歌詞研究会』（2020年7月5日（日）21:30～22:00放送）について意見交換した。なお今回の番組審議会は、新型コロナウイルス感染防止のため、Web会議の形式で開催された。

◆番組概要

曲はよく知っているけれど歌詞をしっかりと読んだことはないということはありませんか。この番組は福島アナウンサーが歌詞の一語一語を噛み締めながら丁寧に独自の解釈を展開し深く掘り下げるラジオ番組です。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *日曜日の夜にあずくに備えて聴くには福島アナウンサーの声のトーンがちょうどよいのではないかと思った。これはラジオでしかできない。30分という時間を福島さんの趣味の世界で語り尽くすというのは、テレビではできない、ラジオならではの番組だと思った。
- *普段は聞き逃しそうな流行歌の歌詞について深掘りするというコンセプトはすごく面白い。深掘りするほど意味のある歌詞とか、聞き惚れる奥の深い言葉がある歌がどれぐらいあるのか試みとしては昭和らしい。テーゼという言葉の使い方が気になった。
- *オープニング、口上が昭和感がいっぱいなのに、取り上げるのは「インフルエンサー」という選曲がなぜこれなのか。昭和の香りを思い切り醸し出している番組としては違和感を持った。

- * 1曲丸々、番組の中で2回も聴かされるのはちょっとしんどいような気がした。
- * 「君に溺れているのではなく、おまえは自分に溺れているのだ」という指摘や「酔ってますね」とか「彼にとっての中心は彼自身だ」というふうに指摘してるのがすごく面白かった。対象に全く興味がなくても、価値があるものと世の中に思われてなくても、解釈することそのものが面白い。考える、思考のゲームみたいなもので、それ自体が面白いということにいろんな人が気づいてくれたらなと思う。
- * これはラジオ番組ではなく30分間、ラジオ番組のパロディーの形をとって、流行歌を好きなように解釈する遊びをしているんだと思う。関西ローカルの人にどうサービスしようかではなくて、全国、今radioで聴けますから、そういう人たちに向けて福島流の遊び作品をつくって届けたかったんじゃないか、そういうふうに解釈している。
- * 先に形をつくって、そこに来いというような類の、ちょっと今までとは違う、ハードルを上げといてそこに入ってくる人と一緒に楽しもうという番組なのかなと思った。今までラジオを聴かなかった、インターネットのほうでどんどん発信してきたような人がここに来る可能性もあるんじゃないかなと。そういう意味ではすごくチャレンジしていて応援したいなと思った。
- * 私も語りたいたいと思わせるような番組。オーディエンスからのコメントを求めていたが、それをネットでも何でもいいから、どういう反響があって、それについてどういう意見があったのか。オーディエンスの反応を次の放送の回にでも、「前回の放送ではこういうテーゼに対してこういう反テーゼがありました」という形で発展させると面白かったのかなという感想を持った。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- * テーゼ＝命題、今回はこの曲に決めたという意味で使ったつもりだが、正しい言葉の使い方に関して検討する。
- * 人気のある曲であればあるほど研究が多いので「数々の先行研究が多いと理解しております」という一言を必ず入れている。その曲の作詞家の方、制作関係者、アーティスト、ファンの方が不快な思いをしないように配慮しないとイケないと思っている。

以上